

クルーズ船を利用したのビジネス交流会 ～World Trade-Networking Sunset Cruise on Circle Line Downtown' sに参加して～

ニューヨーク事務所

ニューヨーク商工会議所では月2回程度、商談会や展示会、セミナーといったビジネスイベントのほか、交流会を開催している。交流会へは参加費に差があるものの会員でなくても自由に参加できる（会員になるには年会費が必要）。交流会は、ステーキハウス等市内のレストランでの朝食会やランチ、ディナー、カクテルパーティのほか、サンセットクルーズなど、時間や場所の設定も様々である。今回は、5月19日に行われた、サンセットクルーズに参加した結果を報告したい。

マンハッタンのクルーズ主催会社には、有名なサークルラインのほか数社あるが、今回乗船したのは、比較的新しい会社であるニューヨークウォータータクシー。午後5時30分、South Street Seaport から定刻に出航。船はクライスラービルのある42丁目付近までイーストリバーを北上、Uターン後ロウアーマンハッタンを臨みながらハドソン川へ入り、44丁目付近まで北上、その後は Liberty Island へ引き返し自由の女神の前でゆっくりと旋回、午後8時過ぎに港へ戻った。

今回は Trade-Networking ということで、乗船後すぐにどこの国からの参加者がいるか紹介があった。会場内では、ワインやビール等の酒類やソフトドリンク、カナッペやブラウニーなどの軽食が提供され、リラックスした雰囲気の中で参加者同士、気軽に声を掛け合い、会話を始めていた。



ワインやカクテルを片手に商談相手と
歓談する参加者



出航した South Street Seaport からの夕景
(午後8時30分頃)

参加者は貿易会社やイベント主催会社などの会社経営者や弁護士、銀行員等、業種も様々。会話はお互いの仕事の紹介から始まり、取引相手あるいは顧客となる相手かを見極め、ターゲットとなる場合は会話を継続、そうでない場合は他愛のない会話で話を切り上げ、次の商談相手を探しにいくというスタイルで、船内は常に人が回遊している状態であった。途中にはリズム&ブルースの熱唱や、自由の女神への接近などのサービスもあり、会話のきっかけには事欠かない。船の中という一種の閉鎖空間の中で、お互いの距離を近く感じるという利点もある。参加者は下船する直前まで、歓談を続けていた。

(所感)

クルーズ船を利用したビジネス交流会とはどのようなイベントなのか、なぜ商工会議所がそのようなイベントを主催するのか。私が最初に思った疑問であった。

実際に参加した感想は、スマートの一言に尽きる。日本の商工会議所においても、勉強会やセミナー、異業種交流会等を行っているが、食事を伴う交流会は主流ではない。今回のクルーズでは、お酒をアクセサリとして活用し、人々は純粋に商談を目的に歓談していると感じた。サンセットクルーズという設定から、参加者は上品なビジネススーツに身をまとい、歓談の間には河岸の景色を楽しむ。

また、同席した経営者は、連邦政府は GM やクライスラーといった巨大企業へは公的資金を投入するが、自分たちのような中小企業には不況の中でも助成措置はなく、法人税や給与など支払うばかりと話し、中小企業を取り巻く厳しい環境は日本と同じなのだと知った。このような経済事情についての情報交換も行われているようである。

日本と同じく任意加入である商工会議所自身の会員募集 PR にもつながり、さらにはクルーズ会社の宣伝にもなり（プライベートクルーズの宣伝ちらしが各テーブルに設置されていた）、費用対効果としても悪くない。会員25ドル、非会員50ドルという参加費も、厳選された商談相手に営業でき、情報交換あるいは人脈づくりが効率的にできることを考えると安価と感じる。地域企業の振興に貢献するという商工会議所の目的に合致する、ニューヨークに相応しいお洒落でフレンドリーなビジネスマッチングと感じた。

(牧所長補佐 広島市派遣)